

令和元年(2019年)10月21日

被災地での視覚障がい者に配慮をお願いします —本人の留意点、要支援者を見かけた際の支援方法—

公益社団法人 日本眼科医会
日本ロービジョン学会

この度の台風 19 号による豪雨災害により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。
被災地での視覚障がい者の方々は周辺の状況確認がしにくく、避難所でも、見えない・見えにくいことで、大きな不安をお持ちです。視覚障がい者数は約 31 万人(身体障害者手帳保持者)で、視覚になんらかの障害がある方は想像以上に身近な存在です。被災した視覚障がい者ご本人の留意点、並びに、避難所などで視覚障がい者を見かけた際や、白い杖をお持ちでない視覚障がい者に気付かれた際の留意点を以下に記します。

被災に遭われた視覚障がい者の方 【要支援者】

○避難所では

- 1、避難所の管理者に目が不自由であることを伝えましょう。
- 2、目が不自由であることを周囲の方に知らせましょう。
- 3、生活上必要な配慮を周囲の支援者に具体的に伝えましょう。
- 4、当事者団体や点字図書館などに連絡しましょう。

○自宅では

- 1、目に障害のない人に安全上の問題を確認してもらいましょう。
- 2、食料・水・簡易トイレなど生活に必要な物資を確保しましょう。
- 3、電話やメールなど、非常時の連絡手段を確保しましょう。
- 4、家族や支援者に自宅に避難していることを知らせましょう。

視覚障がい者との接し方
3つのNG

1. 大丈夫ですか？
 何かお手伝いしましょうか？

2. あっちです、こっちです
 正面、右、左、●時の方向

3. 無言で立ち去る
 では、失礼します
(何かにつかまってもらう)


【誘導】
肘、肩を持ってもらう。
手を引っ張らない。



視覚障がい者を見かけた方 【支援者】

1. 支援者であることを伝え、「何かお手伝いできることはありますか？」等の声かけをお願いします。
2. 必要な時には、近隣にある「見えない・見えにくい方」の支援団体を調べて紹介してください。
3. 支援していただくときの留意点
「声をかける時は正面から」「移動の際は手を引かず、支援者の腕に掴まってもらってください」
「段差や足元が悪い箇所など危険がある時は、立ち止まり安全確保の上で説明をしてください」
4. 以下のような支援をぜひお願いします。
「トイレへの誘導、避難所内やトイレ内のレイアウトなど、現在の状況について口頭での説明」
「読み書きの支援」「食事等をもらうときは一緒に並ぶ」「“あっち”ではなく、“右”“●時の方向”」

視覚障がい者対応へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

* 日本ロービジョン学会 参考 HP: <https://www.jslrr.org/information/disaster>

